

運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和2年9～12月号 第207号

(令和2年12月15日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

TOSOKYO・今

ホームページが新しくなりました

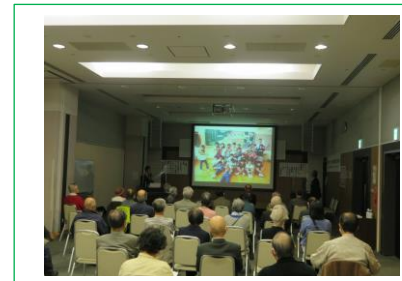
新型コロナウイルス感染拡大が心配される中、地域での活動、イベントの多くが中止となっています。東創協としても、それらの活動、イベントを紹介することができていません。この機会を逆に生かすために、かねてより懸案だったホームページの刷新を図ることといたしました。従来のホームページは、内容の更新などについては外部に依頼していましたが、掲載情報のタイムラグなども生じておりました。今回リニューアルして開設したホームページは、自前で作成しアップいたしました。内容的にはまだ発展途上ですが、今後は随時更新を図りつつ充実させていきますので、ご覧いただければ幸いです。ホームページアドレス: <http://www.main.tosokyo.info>



◆開催報告 生活会議連絡協議会 東京のまちづくり運動の輪を広げる集い

10月22日(木) 東村山市・サンパルネ38名参加

当日は、西村都生連会長及び藤本事務局長のあいさつの後、2団体から活動報告がありました。玉川上水の自然保護を考える会は、萩本事務局長が「玉川上水の自然活動保護と、ホテルの復活」をテーマに、熟年いきいき会は、太田代表が「明るく 元気な 仲間が集う」をテーマに、それぞれ活動報告を行いました。講演会に移り、講演者として、立川市立第六小学校主任教諭の溝越勇太先生が、「まちを知り、まちに愛着をもち、まちに貢献できる まちの担い手を育てる」をテーマに、約1時間講演を行いました。講演内容は、同小の「湯ったりあったか羽衣プロジェクト」についてです。このプロジェクトは、2017年度から実施され、総合的な学習の時間を使って、銭湯の魅力を学ぶものです。学習を進める中で児童たちは、住民の交流の場となってきた銭湯が年々減少していることを知り、「銭湯の魅力を伝えたい」と、自分たちができることを話し合い、様々なことに取り組んだとのこと。銭湯がテーマの動画の制作や学芸会での演劇、銭湯絵師の方の協力を得て、富士山を描いた手ぬぐいの製作や販売、多摩都市モノレール車内や駅構内で、銭湯の楽しさを伝えるポスターや作品を展示したことなどです。この授業を通して、「人前で話す自信がついたこと」など、児童の変化や成長の様子も話されました。



◆開催報告 生活学校連絡協議会 講演会

11月16日(月) 東京都消費生活総合センター36名参加

本年度は、例年行っている対話集会に代えて、講演会が実施されました。講演会に先立ち、田丸都生連会長から日創協の事業説明が行われました。その後、小島あずさ氏(一般社団法人JEAN事務局長)が、「プラスチックによる海洋汚染～わたしたちにできること～」をテーマに、約1時間講演を行いました。講演内容は、同団体が行っている海洋ごみ問題の解決のための様々な取組についてです。海洋ごみの種類と数量の今と昔の違い、海流や風等によるごみの漂流や漂着、日本各地のごみだらけの海岸の様子、ごみによる動植物への影響や被害、プラスチックごみの問題、近年のマイクロプラスチックによる新たな海洋汚染などについて、スライドを交えて話されました。ごみ問題の解決のためには、社会の仕組みやルールの変革もさることながら、「ひとりひとりの行動が変わることが重要」と話されました。



田丸副会長が叙勲



11月3日(火) 秋の叙勲の発表があり、本協会の田丸せつ子副会長が、「旭日双光章」を受章されました。おめでとうございます。



渋谷区生活学校連絡協議会 特集号

昭和42年に設立された渋谷区の生活学校連絡協議会が52年の歴史に終止符を打ちましたが、解散特集号が届きました。4月に総会・解散会を予定していたところ、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止を余儀なくされましたが、その後も編集を続け、10月に発行されたものです。今後は、それぞれの生活学校での活動に期待します。

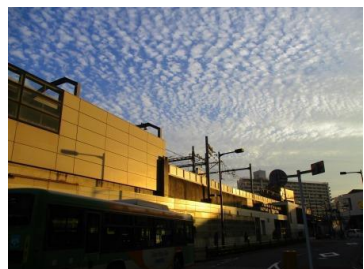
◆東京の変貌～荒川区・南千住を訪ねて



南千住四丁目界限～ドナウ通り



JR 貨物・隅田川駅から望むスカイツリー



南千住駅・秋の夕景

南千住は、荒川区の東部に位置します。その中心に南千住駅(南千住駅 JR 常磐線・東京メトロ日比谷線・首都圏新都市鉄道つくばエクスプレスの3線)があり、乗り換えなしで上野駅に5分、秋葉原駅に8分、東京駅に15分、銀座駅に22分で着くなどアクセスは良いところです。1987(昭和62)年から旧汐入地区を中心に大規模再開発がはじまり、その姿を大きく変貌しました。

駅前から続く広い通りは、「ドナウ通り」と名付けられています。これは、荒川区と友好交流都市として提携しているオーストリアのウィーン市ドナウシュタット区にちなんでの名付けられたとのことで、ウィーン市ドナウシュタット区内にも、荒川区との交流を記念して「東京通り」「荒川通り」「尾久小道」などの名称の道があるようです。

ここ南千住の中心を占めているのが、JR貨物の隅田川駅です。品川区八潮にある東京貨物ターミナル駅と並ぶ東京の二大貨物駅で、いわば貨物の「北の玄関口」として活躍しています。1896(明治29)年、常磐炭田の石炭受け入れのために設置されましたが、その後、木材や砂利などの扱ひも隅田川の水運と連携して行っていたようです。今は、コンテナ扱ひが多く、首都圏の新聞・出版産業で消費される紙の多くが集まってきているようです。

今の南千住は、高層住宅が立ち並んでおり、比較的若い世代の住民が多くなっています。川の浄化も進んだ隅田川の川辺もきれいに整備され、対岸に連なる都営白髭東アパート、遠くにそびえるスカイツリーも合わせ、素晴らしい景観に出会えます。一度、訪ねてみては如何でしょう。

◆「かんじゅく座」(シニア劇団)公演

60歳以上の熟年男女によるアマチュア劇団「かんじゅく座」が、11月、練馬区大泉学園にある東京都社会福祉事業団が運営する石神井学園で公演をするとのことで、おじゃまして拝見させていただきました。

かんじゅく座の団員は、60歳以上という限定がありますが、女性が多く、仕事をしている方、主婦など演劇好きで構成されています。劇団の目的は、シニアに「演劇で元気になってもらう」ことです。「劇団は楽しい。セリフとストレッチ体操で、介護予防にもなる。」「仲間と一つのものを創り上げる劇団公演は、人から元気をもらえて楽しいし、達成感が得られる。」「自分とは縁のなかったバーのマダム役をやったときが一番楽しかった。役作りのためにバーにも出かけてみた。ミュージカル“ねこら!”の役作りで都庁やホームレスも見て回った。」「車椅子になったら、その役を用意する」という主宰者の声に、続けられる限りは続けたいと思う。」

劇団主催者の鯨エマさんは、「シニア劇団で1回舞台を経験すると、観客の反応が好評でやめられなくなる(人前で笑いをとることの快感)。舞台表現をするうえで、自分の長い人生経験が無駄にならない。」とおっしゃっています。そんなシニアパワーにあふれた劇団公演を見た子どもたちは、その迫力にたじろぐものの目を輝かせて舞台を見入っていました。劇団員の真剣な演技に力もらったのは間違いありません。



ミュージカル「ねこら！」の一場面



迫真の演技に見入る子どもたち

▽ひとこと コロナ禍で観光業界は厳しさを増しているとのニュースが流れていますが、そんな記事の中でインバウンドという外来語が頻繁に使われているのを目にします。あたかも日本語であるかのように使われていますが、その表記の仕方が「インバウンド(訪日外国人客)」という具合に、日本語訳が付いている場合が多いことからすると、完全に定着していないのでしょう。だったら、「訪日外国人客(インバウンド)」で良いのでは。もしくは、「訪日外国人客」で良いのではと思ってしまいます。オリンピックを五輪、スポーツを運動と表記すべき、と言っているのではなく、定着もしていない外来語を誰もがわかっているが如き使い方は、やめた方がよいと思うのは、私だけでしょうか。それでも、そんな横文字がこれからも、節操もなく使われるのだろうと諦めています。一方、「鬼滅の刃」の空前のブームに象徴されるように漢字使用に対する一種のあこがれもあるようです。ちなみに、「鬼滅の刃」の英訳は“Demon Slayer”とのこと。外国でも「TUNAMI」「KARAOKE」同様に「KIMETU NO YAIBA」とすれば良いのと思いますが、そんな非合理的な名付けはしないのでしょうか。(竜)